

平成29年度
第1回

輝く“とちぎ”づくり表彰



表彰事例の紹介

栃木県では、NPO・ボランティア団体と企業、大学、公益(一般)社団(財団)法人、社会福祉法人、コミュニティ団体等が地域の課題を解決するため、それぞれの特性を生かしながら協働して取り組む社会貢献活動を「輝く“とちぎ”づくり表彰(栃木県知事賞)」として表彰しています。

第1回目となる平成29年度は、最優秀賞1取組2団体、優秀賞2取組5団体を表彰しましたので御紹介します。



平成29年度輝く“とちぎ”づくり表彰 表彰式(平成29年10月30日:とちぎ協働推進大会にて)

栃木県県民生活部県民文化課



最優秀賞 (1取組2団体)

取組名:発達障害や軽度知的障害のある方の運転免許取得支援

受賞団体:特定非営利活動法人CCV

受賞団体:株式会社鹿沼自動車教習所



教習所入所前の学習支援(CCV)



学習支援(教習所)



技能教習支援

協働の概要

- ・平成23年9月取組開始
- ・発達障害や軽度知的障害のある方を対象に運転免許の取得から就労などの社会参加までを支援
- ・教習所入所前は、NPO法人CCVが主体となり個々に応じた事前の学習支援や生活支援等を実施
- ・教習開始後は、教習所に配置されている「コーディネーター」が寄り添い、相談支援を実施
- ・発達障害について学んでいるコーディネーターが、技能教習の同乗や学科教習の同席、個別の学習支援、生活支援を実施し、教習生活全体を支援
- ・遠方の方が利用する合宿所では、NPO法人CCVの職員が生活支援や余暇支援を実施
- ・卒業後はフォローアップとして、運転チェックや就労支援を実施

成果

平成29年10月末までの事業参加者（現在教習中の方も含む）が140名を超え、すでに120名以上の方が運転免許を取得しています。中には、教習所に1～3ヵ所通ったが免許取得に至らなかった方や他教習所から転校される方も多く見られます。

運転免許の取得により自信をつけひきこもりから就労に結びついた方、免許取得後に県外から鹿沼市に転居し、NPO法人CCVの支援により就労を継続している方など、発達障害や軽度知的障害のある方の社会参加を支援することができました。

活動の展望

この取組をモデルケースとして、発達障害や軽度知的障害のある方が運転免許を取得することで社会参加の促進となるようノウハウの提供を行い、このようなNPO法人と教習所が連携できる全国ネットワークの形成・主導を目指していきます。

評価のポイント

教習所入所前から卒業後までの切れ目のない支援により、運転免許を取得できなかった方が取得できるようになり就労にも結びついている点、また、今後全国に広がる可能性がある取組であることが評価されました。

輝く“とちぎ”づくり表彰制度

表彰の対象となる取組

- 次に掲げる要件をすべて満たす取組
- ・栃木県内に事務所を有するNPO・ボランティア団体が主体となり、企業、大学、公益（一般）社団（財団）法人、社会福祉法人、コミュニティ団体等との協働の取組であること
- ・栃木県内で現在継続中の取組であること
- ・行政機関からの委託による取組ではないこと



優秀賞（2取組5団体）

取組名：イルミネーションを中心とした子どもたちの健全育成及び地域活性化

受賞団体：下野市ウインター活性化推進協議会

受賞団体：一般財団法人グリムの里いしばし



お城の組み立て



中学生によるボランティア



イルミネーション

協働の概要

- ・平成21年10月取組開始
- ・ボランティア団体を立ち上げ、イベントの少ない冬の時期に、市街地に残った貴重な平地林グリムの森と、ドイツの建物をモチーフとしたグリムの館において、イルミネーションを中心とした各種イベントを開催
- ・様々な年齢層のボランティアが関わり、毎年イルミネーションの規模を拡大し、また、子どもから大人まで楽しめる各種コンサートや婚活（グリコン）も開催（現在は一市二町の婚活とジョイント）
- ・企業・個人からの協賛金や模擬店での収益により資金調達

成果

初年度の来場者は2千人（1日当たり30人程度）でしたが年々増加し、8回目には県内外から13万5千人（週末には1日4千人前後）が来場しました。

ボランティアやイベントに、地域の小中高生も参加するなど、世代間交流が広がり子どもたちの健全育成に寄与しています。

また、地域の資源であるグリムの里の知名度やグリムの館の利用率が向上するなど、地域活性化にも大きく貢献しています。

活動の展望

下野市の冬の風物詩として定着し、多くの皆様に夢・希望・感動を与えられるよう、毎年イルミネーションの規模を拡大するなど工夫を凝らし、更なる地域活性化に繋がっていきたいと思います。

特に平成30年は10回目という節目の年を迎えるので、より華やかに開催できるよう努力しているところです。

評価のポイント

地域課題解決のため、ボランティア団体を立ち上げ、資金集めやボランティア集めに東奔西走し、毎年イルミネーションの規模等を拡大しながら継続して取り組んでいることが評価されました。

評価項目

創意性、連携度、成果、継続性・発展性の観点から総合的に評価

応募方法

自薦又は他薦

応募期間

平成29年7月3日～平成29年8月31日

その他、詳細はホームページをご覧ください。

輝く“とちぎ”づくり表彰

検索



優 秀 賞 (2取組5団体)

取組名:図書館プロジェクト

受賞団体:特定非営利活動法人手仕事工房そら

受賞団体:栃木県立真岡女子高等学校

受賞団体:真岡市立図書館



本の読み聞かせ



ワークショップ



としょプロ集合

協働の概要

- ・平成27年12月取組開始
- ・障害者の理解促進と権利向上のため、毎年12月の障害者週間に合わせて、地域の住民が集まりやすい図書館においてイベントを開催
- ・イベントでは、障害者の方の活動写真や障害をテーマとした本の読み聞かせ、障害についてのクイズ、クラフトバックづくりや染色体験等を障害者の方と一緒に体験
- ・「障害がわかるガイドブック」を自主制作し、学校や関係機関に配布

成 果

平成27年度と28年度は12月の障害者週間に合わせてイベントを実施しましたが、平成29年度はより多くの人に参加してもらえるよう夏休みに入った7月にも実施し、たくさん子どもたちで賑わいました。

また、地域の高校や福祉施設等に声をかけたところ、栃木県立真岡工業高等学校、真岡市社会福祉協議会真岡さくら作業所、栃木県立益子特別支援学校も参加し、交流の輪が広がりました。

障害者週間の周知が図られ、子どもたちと障害を持った方たちとの触れ合いの機会や、障害を持った方たちが外で活動するきっかけを作ることができました。

活動の展望

イベントでの材料費は無料で提供しており、資金面について不安な面があるので、補助金や助成金を活用していき、さらには自主財源も確保しながら持続的に活動をしていきたいと思えます。

また、障害に対してより理解を深めてもらえるよう、冊子をバージョンアップする予定です。

今後も交流の輪を広げていき、障害を持った方が地域において自立していくきっかけとなるような機会を増やしていきたいです。

評価のポイント

若者世代の高校を含めた3団体が障害者理解促進と権利向上のため、それぞれの持ち味を生かした役割分担により取り組み、交流の輪が広がっているところであり、今後更なる発展が期待される取組であることが評価されました。

問合せ

栃木県県民生活部県民文化課県民協働推進室

〒320-8501 宇都宮市埴田1-1-20

電話028-623-3422 FAX 028-623-2121